

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立田辺高等学校 】

1 実践テーマ	【I・IV・V】
2 実施対象者	京都府立田辺高等学校 3年生 総合的な探究の時間「生涯スポーツ」選択者40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な探究の時間「生涯スポーツ」）
4 目標 (ねらい)	(1) 生徒がよりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図ること。 (2) 障がい者スポーツである「ボッチャ」に取り組み、障がいの有無や年齢にかかわらず楽しむことのできるスポーツを体験し、障がい者スポーツへの理解を深める。
5 取組内容	<p>【ボッチャ体験教室】</p> <p>(1) 日 時 令和3年11月5日（金） 13時35分～15時25分</p> <p>(2) 場 所 本校体育館</p> <p>(3) 対 象 3年生 総合的な探究の時間 「生涯スポーツ」選択者40名</p> <p>(4) 講 師 一般社団法人 日本ボッチャ協会 普及部 刀谷 誠 氏</p> <p>(5) 内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 挨拶、競技説明 ② ルール動画視聴 ③ デモンストレーション（教師対応） <ul style="list-style-type: none"> ・3つの投球技 ・得点の数え方 ④ ボッチャ体験 ⑤ ミニボッチャ大会 ⑥ 質疑応答



6 主な成果	<p>(1) 誰でも取り組みやすい「ボッチャ」をツールとしたことで、障がいの有無や性別、年齢に関係なく、誰でも平等に「ボッチャ」を楽しむことができることを体感できた。</p> <p>(2) 東京パラリンピックのボッチャ競技での、日本選手の活躍やボッチャ協会の活動内容を知り、障がい者スポーツへの理解が深まった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 新型コロナウイルスの感染が完全に収まらない中、体育館で実技を伴う授業であったため、参加人数も40人という適正な講座を選択し、十分な活動場所を確保した。</p> <p>(2) 「生涯スポーツ」の授業であるため、「ボッチャ体験」の直前の授業では、「バドミントン」に取り組み、様々な種類のスポーツに触れる機会を設けている。</p>
8 主な課題等	<p>(1) 今年度は東京オリンピック・パラリンピックの実施年であったため、実際の代表選手には講演を依頼しても、多忙のためなかなか引き受けていただけなかった。トップアスリートとの日程調整方法は困難なため、検討が必要と思われる。</p> <p>(2) コロナ禍の中では、計画段階で様々な工夫が必要となる。参加人数や実施場所、実施方法など、感染症対策を講じた有効な実施形態の検討が必要である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>できればトップアスリートを講師として迎え、世界で活躍されている選手の生の声を本校の生徒に伝えていただく機会を設けたい。対象生徒や実施形態については、上記の課題を考慮し、効果的に実施できる方策を今後も継続して検討する。</p>